

年次支部ニュース

第19号



ホームカミングデーで音研学生による弦楽奏風景
駿河台キャンパス



ユースホステル研究会60周年記念祝賀会の集合写真
現役学生とOBの交流

年次支部協議会の使命

明けましておめでとうございます。学員会年次支部協議会代表幹事の清野でございます。

年次支部の皆さまにおかれましては、健やかな新年をお迎えになられましたこと、心よりお慶び申し上げます。また、平素より年次支部協議会の事業活動にご支援・ご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。

学員会は、地域支部、職域・職能支部及び卒業年の年次支部で構成されていて、それぞれの特性を生かしながら活動しており、支部数は海外18支部を含め250支部に及びます。

年次支部協議会では、これまでも諸先輩方のご努力によりその職責を果たされて参りましたが、2014(平成26)年度からそれまで順送りだった執行部を組織変更して、役員は一支部だけでなく幅広い世代の役員構成に変え、共同責任体制で運営することになりました。

さらに、2018(平成30)年4月か

らは、より効率的な組織運用を図るべく年次支部協議会会則の一部改正を行い、組織の簡素化に着手するとともに、ガバナンスの強化、活発なコミュニケーションの醸成を目指すこととし、これまでの組織を1局3部制(IT推進化を含む「事務局」、「大学・学員交流部」、「学生後援部」及び「広報部」として改組・設置してスタートさせました。責任体制としては、事務局は事務局長、3部は各部長とし、それにサブ(事務局次長、各部は副部長1~2名)を付けることで新たに中堅支部層の役員が中心となり、特に執行部役員会ではコロナ禍においてもオンラインを利用した会議を開催するなど、情報交換やチャレンジ企画など新たな活動をはじめ活性化の課題に取り組んで参りました。

私が年次支部協議会の執行部役員会のメンバーに加わったのは、2018(平成30)年4月に事務局長に推薦され就任したときからで、丁度、

年次支部協議会 代表幹事

清野 強

(白門50会支部長)



2018(平成30)年4月からの組織の改組・設置された時期を同じくしました。その後、2020(令和2)年4月から今年(2024年)3月で代表幹事を2期4年務めさせて頂くこととなります。

私が事務局長退任と同時に代表幹事に推薦され就任以降、この4年間はコロナ禍で協議会の事業計画や全体会議の一部が取り止めにせざるを得ない状況となりましたことを、この紙面をお借りしてお詫び申し上げます。

学員会及び年次支部協議会の使命は、同窓生が志を一つに「ONE CHUO」の精神をもって、白門の絆を大切に念頭に置き、母校中央大学、学員会及び年次支部協議会の発展と興隆に寄与することであり、今後も一層努力して参りますので、皆さま方のご理解と温かいご支援とご協力をお願い申し上げます。

2023年出雲駅伝観戦記

白門48会：山口隆司

2023年（令和5年）10月9日（祝）に開催された出雲駅伝の応援のため、前年に続き年次支部の白門48会有志8名が参加した。

前日に米子空港から島根県に入り、いくつかの名所を観光した後出雲に到着し、10年前まで利用していた中大の定宿旅館に宿泊。夕食後には、ラグビーワールドカップ日本対アルゼンチン戦で日本に声援を送りながら、翌朝の駅伝応援気分を大いに盛り上げた。

当日は快晴で気温は高く、じっとしていても汗ばむほどの天候となった。中央大学の前評判は上々で、駒澤大学との優勝争いも期待され、OB・OGの期待は否が応でも盛り上がった。一行はスタートから300mほどの地点に陣取ったフルメンバーの応援団の隣で号砲を待つこととなったが、その周りには中国地方の卒業生や父母会の皆さんが多数集まっており、中央大学一色の状態



フルメンバーで気合を入れる応援団



OB・OG・父母会の皆さんも応援



スタートで飛び出した浦田選手

で期待はますます高まった。

スタートは13時05分、一区浦田優斗選手が颯爽と飛び出して、応援団の前をトップで通過して行った。しかし残念ながら中盤から失速し区間13位と出遅れてしまった。その後の二区中野翔太選手、三区吉居駿恭選手も挽回できなかったが、四区阿部陽樹選手、五区溜池一太選手で少しずつ盛り返し、六区湯浅仁主将の頑張りで何とか7位に滑り込んだのが最終結果であった。

われわれは近県父母の会のバスに便乗させてもらい、四・五区の中継地点とゴールの出雲ドームへと先回りしながら応援したが、全体として駒澤大学が一区から飛び出しての完全優勝で「駒澤強し」の印象が強く残った大会となった。優勝争いに絡



4区で力走する阿部選手

むと予想していたわれわれと中央大学関係者にとっては大変残念な結果となってしまったが、スタート前には吉居大和・駿恭選手のご両親にも出雲大社前でお会いできて記念写真に収まるなど嬉しい場面もあった（大変若々しいご両親で現役大学生の親はこんなに若いのかと妙に感心してしまった）。



吉居兄弟のご両親（前列中央）と記念写真

その後は温泉津温泉に宿泊し、鄙びた温泉街や温泉津焼の登り窯などを見学し、米子空港から羽田への帰途となった。

駅伝結果は残念であったが、天候にも恵まれて思い出深い楽しい旅となった。今後の全日本大学駅伝、箱根駅伝でのリベンジに期待したいと思う。

2023年伊勢駅伝応援

学員会副会長：阿部 勲

2023年(令和5年)11月5日(日)全日本学生駅伝(通称伊勢駅伝)に応援に行ってきました。

お正月の箱根駅伝は毎年欠かさずにスタート地点の大手町に行きますが、伊勢駅伝の応援は初めてであり戸惑うことが多々ありました。

晩秋とはいえ暑さが残る名古屋熱田神宮西門を8時10分にスタートし、全8区間106.8Kmの戦いが始まりました。熱田神宮には各校の応援の旗が立ち並び、駅伝応援ならではの熱気を感じる風景でした。しかし残念ながら中大応援団は大学の白門祭と重なり、その雄姿を見ることがなく寂しくも残念な気持ちでした。それでも名古屋地区の卒業生や父母会・ご家族が中心となり、白地に赤のCのマークの旗が他の学校に負けないくらいの数で立ち並んでいました。

出雲駅伝は7位と出遅れた中央大学の巻き返しなるかと多くの卒業生が応援に駆けつけましたが、大会規約で応援規制がかかる中、中央大学の幟と小旗での控え目な応援となりました。

いよいよスタート時間が差し迫り皆が今か今かと待っている中、突然中大1区吉居駿恭選手がウォーミングアップで我々応援団の前を走り抜はすぐに折り返してスタートラインに戻りました。「がんばれ駿恭」と応援も一気に盛り上がり、最高潮に達した瞬間スタートの号砲が鳴り伊勢駅伝が始まりとなりました。

その応援に見事に答え1区吉居選手は1位駒澤大学と3秒差の3位と順調にスタートを切りました。続く2区の中野選手は力走ながらも若干



2023年伊勢駅伝応援



左：阿部江戸川区支部長 右：松村大阪支部長

順位を落とし、5位でタスキを3区大エースの吉居大和選手に繋ぎ巻き返しを期待しました。しかしながら残念なことに吉居大和選手は体調不良もあり区間順位11位の不調で順位7位で4区へとタスキを繋げました。その後各区の選手の頑張りで最終8区では3位まで順位を上げ、青山・国学院・中央大学で3分差の首位駒澤大学を追いかけ、熾烈な2位争いを展開しました。

スタートの熱田神宮での応援後、私たちもゴールの伊勢神宮目指し移動し、途中経過をTVで見ながらハラハラドキドキしてゴールの伊勢神宮に向かいました。ゴール前の参道には大阪支部松村支部長を始めとし関西地区から大勢の学員会支部の方が応援に駆けつけて他校を圧倒する中大の旗の数となりました。

いよいよゴールとなり首位の駒澤大学が走り去ったのち、ゴール手前の直線道路では3校による2位争いのデッドヒートが繰り広げられ、中大阿部陽樹選手が健闘むなしく2位青山と15秒差の4位での最終順位となりました。

選手の皆さん本当にお疲れ様でし

た。また優勝した駒澤大学は一度も首位を譲らず、8区間中4名が区間賞を獲得するという選手層の厚さを見せつけました。「駒澤大学！ あっばれ」です。

駅伝終了後食事会が4会場に分散し開かれました。我々はおかげ横丁の食事処「すし久」に移動し、伊勢名物「手捏ね寿司」を関西支部の方々と一緒にいただきました。色々とお世話を頂きありがとうございました。

食事途中には河合学長が挨拶にお見えになり、応援のお礼と伊勢駅伝の終盤に感じた手ごたえで来年の箱根駅伝は優勝できると力強く宣言しました。

駅伝の最中は抜けるような青空の天気でしたが、中大の順位に不満があったのか伊勢路の神様のご機嫌を損ねたようで、食事会途中にわかには雨が崩れ雨が降り出しました。しかし食事会終了時には雨も止み雨上がり、清々しい中玉砂利を踏みしめ、中央大学の発展と箱根駅伝100回大会の優勝を祈願して伊勢神宮を参拝し、伊勢駅伝応援は終わりとなりました。

第32回ホームカミングデー

いいんだ。山本の責任で やったんだから。

ホームカミングデー実行委員長
山本 卓
学員会副会長 (平成二年支部会長)

卒業50年を迎えた昭和48年3月卒業生の在学中トピックに「大阪万博」がある。テーマは「人類の進歩と調和」。進歩に伴って生じる歪みを如何に解決し、調和するか。テーマプロデューサーに就いたのは鬼才・岡本太郎。岡本は「人類の進歩」を信じずに縄文の土偶『太陽の塔』を屹立させ、「調和は妥協に過ぎない」と言い放ち、そのテーマに挑んでみせた。岡本に「いいんだ。岡本太郎の責任でやるんだから」の名言が残っているが、斯くの如きか。

斯様な時代に青春を謳歌した「48」の先輩方は自らの卒業50周年目の春に、学生生活を送った駿河台での「キャンパス開校」という奇縁に巡り合う。そこで準備期間に一年を充て、駿河台新キャンパスでの春先の卒業50年企画を練った。

然れど新キャンパスの使用規定が開校に至っても定まらず、19階レストランの開業遅延も追い打ちをかけた。致し方なく自前企画は規模を縮小して別会場での開催を決めた。この時、先輩方は誓い合った。「駿河台で再会しよう。秋のホームカミングデーで!!」。

ホームカミングデーのメイン会場は多摩キャンパスに決まる。大学関係者の誰もが複数会場を躊躇う中、我々は初めての試みとなる駿河台との2会場展開に挑んだ。48の先輩方を「駿河台で再会したい」との思いを何とか遂げたいだけだった。終了後の賛否は今もあるが、この試みに悔いはない。成否は48の先輩方のみぞ知っている。

「いいんだ。山本の責任でやったんだから」。



駿河台キャンパス

2023年10月29日(日)に4年ぶりの第32回ホームカミングデーが、主会場である多摩キャンパスと、新しく開校した茗荷谷、駿河台キャンパスのお披露目も兼ねた2会場で開催された。多摩キャンパスには、久々の対面式ということもあり、学員の期待感も高く800人ほどの参加者が集まり、記念式典、親子三代表彰、今年の学員薫風賞(フェンシングの江村美咲選手、前日本青年会議所会頭の中島 土氏の二人)の授賞式が行なわれた。福引き大抽選会場は一杯になり、景品もかなり多く大変盛り

ユースホステル研究会と縁繋がり

昭和50年経済学部卒

相澤 尚

1. 60周年記念式典

歴史に残るコロナ感染症も沈静化しつつあり、1年延期となった「中央大学ユースホステル研究会60周年記念式典」が、昨年10月に100名を超えるOB・OG・現役生が集い、盛大に開催されました。人生で言えば満60歳は還暦、干支が一巡した節目を迎えた長寿のお祝いです。人生同様にユースホステル研究会も幾多の紆余曲折を経て60周年を迎えられたことは凄いことです。式典を開催して下さった実行委員の皆様、

現役生と現役生にサークルのバトンを途切れることなく繋いで下さった卒業生の皆様にOBの一人として感謝を申し上げます。

OB代表挨拶では創設時のメンバー岡本様から創設時の苦労話や貴重な体験談など大変興味深いお話をお聞きすることが出来ました。参加者の皆様とはサークルに在籍した時期も違いますし、お互い面識もありませんが、乾杯の後は歓談で盛り上がり、時間がとても短く感じられる式典になりました。

2. サークルとヘルパー

入学前に高校時代の友人とユースホステルを利用した旅行をしたことがサークル入会のきっかけですが、当時の駿河台キャンパスとその周辺は学園紛争が色濃く残っており、登校すると真っ先に掲示板で授業を確認し、臨時休講や授業間の空き時間にはサークルメンバーが集う喫茶店でコーヒーブレイクするかサークルメンバーが集う雀荘に向いて時間を潰すのが日常だった様に思います。クラスメイトとは違う居心地の良さ



駿河台キャンパス

での開催報告

卒業50周年担当 運営委員・実行委員 佐藤愛子

上がったようである。

反面、今年はコロナが落ち着いたとはいえ、まだ警戒感のある中での酒類全面禁止（他大学も同様）や、大学事情等もあり準備期間も3ヶ月（通常は半年以上）と短く、予算大幅削減で、従来の形式にするには時間的、予算的に無理があり、これまでのホームカミングデーのような内容を期待して集まった学员には失望感が大きかったようだ。実行委員や事務局のメンバーはそんな中必死に準備してきたのだが、学员への案内や説明も充分に行き渡らず、従

がサークル仲間には感じられました。

春夏の長期休暇は稼いだアルバイト代で買ったJR周遊券でホステリングし、休暇の大半はヘルパーして過ごすのがパターンでした。1回生の夏は先輩と共に他大学のサークルとヘルパーが競合する軽井沢友愛山荘に、2回生では中大OBが開所したばかりの高千穂ユースホテルに夏期休暇の後半ヘルパーの一員として過ごしました。評判の大和屋ユースホテルに追いつこうを目標に、宿泊申込の返信葉書への一筆啓上を心掛け、ホステラーがユースを旅立つ見送りまで創意工夫し、翌年には九州でも人気のユースホテルになりました。

就職してからはサークルとは疎遠

来のような交流を楽しみに来校された方々には、納得がいかない結果となったことは大変残念である。大学としても様々な事情があり今後、新しい形に変えていかざるを得ないとしても、来年以降は、皆さんに理解、納得されるように十分な準備期間をとっていただきたいと願っている。

初の試みであった会場分割開催の是非も問われているが、もう一方の駿河台キャンパス会場は狭い建物なので、卒業50周年招待年次のみでの式典（動画配信での参加）や懇親会の開催になったが、茗荷谷キャンパスと共に、駿河台でも午前中は他年次のOB達も自由に見学や、式典模様の動画配信も見れるように配慮された。50周年招待年次参加者への大会議室での式典動画は大画面で画像も鮮明だったので、多摩との共有感はかなり感じられた。その後、近隣の懐かしい店で昼食を楽しみ、午後から白門48会の酒井支部長（元総長）の挨拶、野村修也氏（法科大学院教授・弁護士、陸上競技部長）による【實地應用ノ素ヲ養フー法典編

になりましたが、昭和60年から大分県と福岡県に合わせて約4年間の赴任期間中は高千穂ユースホテルに家族連れで幾度となく過ごさせてもらいました。

3. 半世紀前にワープ

平成23年春頃に鹿児島在住の先輩から「7月東京に行くので連絡取れる仲間を集らないか」の連絡があり、住所録や当時の名簿を元に連絡し7月に7学年に互る23名が約40年の時を経て顔を会わせることになりました。会場となった居酒屋に着いた面々は現役当時の面影を頼りにお互いを確認し合う衝撃的なシーンが見られる印象的な第1回中大YH

纂と英吉利法律学校そして駅伝】の講演では、中央大学の建学精神が駅伝選手にも生かされているなどの興味深いお話があり大変好評であった。講演模様はYouTubeでも配信された。

その後は19Fの展望レストランでの懇親会が開催され、200名近くの参加者が集まった。満席となった会場では、酒類禁止でクリームが出るかと心配されたが、曾根純恵アナウンサーによる柔和な司会と音研女子学生の弦楽演奏に癒やされ、容姿がすっかり変わってしまって誰かわからない同級生には呼び出しをかけたリして50年ぶりの再会を喜び、福引き抽選会も大盛況となった。

半世紀前に駿河台で学んだ懐かしい場所は、特別の思いがあり周辺の駿河台界隈の散策や、茗荷谷まで足を伸ばす人達も多く、大変満足されたようである。新しい茗荷谷や駿河台キャンパスのPRにもなり、卒業50周年年次においては感謝しかなく、ご協力をいただいた方々には心より御礼申し上げます。

研同窓会になりました。

コロナ禍で開催出来ない年もありましたが、昨年の7月には新駿河台校舎近くの居酒屋で11回目となる同窓会が開催されました。2次会のカラオケでは青春時代の曲オンパレードで盛り上がり、締めは肩を組んで「惜別の歌」と懐かしの中大節を歌い閉会となりました。

駿河台キャンパス校内でユースホテル研究会の新入生勧誘用紙に記名したことで始まったサークルとの縁繋がりが、半世紀を過ぎた今LINEで情報を共有し、同窓会では顔を会わせて酒を酌み交わし語らえるとは、サークル現役時には全く想像もつかない世界になりました。

開催

「白門コウダン」by一龍齋貞奈

大学・学員交流部では文化・芸術分野のなかでは落語と、またそれと双璧をなす講談を応援している。ともに大衆芸能の雄とうたわれており、「笑い」は百薬の長である。

中大卒では、昨年3月二つ目に昇進を果たした期待の若手女流講談師の一龍齋貞奈さん(2009年商・会計卒)が活躍している。貞奈さんのテンポのよい張り扇で釈台を叩きながらのリズムに乗った「読みの世界」は絶品で、2023年10月21日(土)、駿河台のキャンパス教室にて26名の中大OBが「出世浄瑠璃」ほか計2題目の講談を堪能した。

大学・学員交流部が従来から開催している落語に加え講談を開催したのは2年前、2021年11月が最初であった。今回は4回目。コロナ禍も鎮静化している世情、ZOOM開催から切り替え、初めてのリアル開催が実現できた。場所は新築・開校してまだ半年の駿河台キャンパス18階学員会使用の教室で、今回よりタイトルを「白門コウダンBY一龍齋貞奈」として開催した。

当日は11時開演。バーバラ鬼頭さん(愛知県立大学卒)による「ピン芸」を前座として始まり12時30分に閉会。その後の懇親会では一龍齋貞奈さん、バーバラ鬼頭さんを交えリアル開催をともに喜びつつ幕を閉じた。

この「白門コウダン」は今後とも定例的に開催していく予定である。

最後に、年次支部協議会は現役学生も含め活躍する白門人をいつも応援していく方針である。それぞれの年次支部が企画するイベントに落語とともに「講談」を取り入れていただければ大変ありがたいと感じている。(57ネット：浜田 英明)



バースデイのサプライズ

へ寄付金を寄贈した。その後、リチャード・ハルバーシュタット館長・実際に被災された松川みどりさんから、震災当時のまま残されている建物・被災状況のパネル・写真等を1時間半に亘り説明して頂いた。説明を聞いていて、テレビに映っていたその当時の悲惨な状況が目に見えようであった。忘れ去られないように応援していきたいと考える。

仙台駅からの新幹線車内では仙台名物「伊達の牛タン弁当」に舌鼓し



石巻震災遺構門脇小学校をバックに記念写真



ながらそれぞれの家路に向かった。お天気にも恵まれ大変有意義で楽しい二日間であった。

※りんご収穫時の写真・記事が地元紙デーリー東北新聞に即日掲載された。(44会：松木茂夫)



屋上庭園でパチリ

てくれ、皆で並んでパチリ。ありがとうございました。

6・7・8階は小教室や研究室が並んでいる完全な学問のスペース、そこはサッと見て“学食を見なきゃあ”と地下に。

地下1階に学食、中教室、大教室、授業のみで使うトレーニングルーム。注目の食堂は銀座スエヒロが運営、メニューも豊富。一般の利用も可でこの日は家族連れが何組も昼食を楽しんでいました。地下の生協で“中大珈琲”購入。

地下2階、学生が自由に使えるト

レーニングルーム、シャワールームも完備で“今の大学ってこうなんだ”と隔世の感！1階の特大教室も確認し、キャンパス見学終了。

“木を多く使ってたね”とか“我々の頃とは大違い”とか言いながら外へ。法学の象徴“テミス像”の前でもう一度記念撮影。そして“飲み放題付”昼食。ビールで乾杯して寿司懐石を楽しみました。

この校舎で法律を学ぶ学生さん達、実り多い学生生活を送られますように。(58会：柳 幸季)



テミス像の前で記念撮影

スポーツ編

第100回大会箱根駅伝の結果は本号には結果のみ掲載しますので、3月号で卒業生特集として4年生の駅伝選手を対象としたアンケートにて、4年間の選手生活を振り返る記事を掲載します。どうぞお楽しみに！！
2023年度下記チーム以外、個人、団体優勝多数あるが、一部のみ掲載。

硬式野球部

西館勇陽選手(法4)が読売巨人軍からドラフト1位・石田裕太郎選手(経4)が横浜DeNAベイスターズからドラフト5位指名を受けた。西館選手は阿部慎之介監督(本学出身同部OB)の下で、石田選手は憧れの牧選手(2021年卒)のチームで、両選手とも中大と縁ある先輩たちの中で精進し、活躍してくれるだろう。

フェンシング

今年のホームカミングデーで学員薫風賞を受賞した江村美咲選手は在学中にも数々の結果を残していたが、世界選手権2連覇を達成し、パリ五輪での金メダルを目指しているそうである。元五輪選手の父上も中央大学、彼女と兄弟2人も中央大学を卒業された白門一家である。

新規会員の参加を歓迎します!!

各年次支部は、同期会の集まりで大学、学員会会員との繋がりで活動しています。

- ▶スポーツ応援「陸上・水泳・野球・ラグビー他」(箱根駅伝の応援、東都大学野球応援、オリンピック選手などの応援ほか)

各年次支部の活動…好みの活動に任意に参加ができます。

- ▶会員間のビジネス交流で人脈の拡大、更に先輩・後輩との繋がりを醸成
- ▶趣味の一致で、幅広い交流とコミュニケーションの充実
- ▶同期生の各職専門家との交流で、信頼感をもって問題解決への導きを図る
- ▶講演会、セミナーなどへの参画により自身の教養などを向上させる

《加入などの問い合わせ》学員会事務局：03-6261-1615

ミニストーリー

西館選手は、世界的に有名になった大谷翔平選手の母校岩手県「花巻東高校」野球部後輩でもあるが、WBCで活躍した佐々木朗希選手(大船渡高校)と同郷同期のライバルでもあり、高校野球岩手県大会決勝戦で激闘の末、佐々木選手の甲子園行きを阻止したことは、地元ファンの間では有名な話である。その佐々木選手の弟、佐々木怜希選手が、なんと中大硬式野球部のスポーツ推薦試験に合格し、この春入学してくることになったそうだ。縁の繋がりは面白い。

軟式野球部

第46回全日本学生選手権で4年ぶり4度目の優勝

ハンドボール部

一昨年の40年ぶりのインカレ優勝～本年インカレ優勝で3連覇を達成！10月のパリ五輪アジア予選が開催され、36年ぶりに優勝しパリ五輪出場権を自力で獲得。悲願の優勝の立役者である4名(OB3名と在校生1名)が本学から日本代表に選出された。

準硬式野球部

東都大学準硬式野球秋季リーグ戦で8季連続の優勝。今季、監督が交代したので心配されたが、選手たちの意気込みは変わっていない。

クイーンズ駅伝in宮城 (女子駅伝実業団日本一を決定する大会)

本学OGの白門ランナー五島莉乃さん(2020年経済卒、現資生堂)が2位以下に40秒近い差をつけて3年連続区間賞を達成、2度目の区間新記録を樹立！パリ五輪に向けて挑戦を続けている。

第100回箱根駅伝大会 中大13位

期待された今大会は、12月末の16名の選手合宿で、悪性集団風邪に14名が感染し、棄権も考えられる最悪の状況に陥ったが、選手達は走る選択をした。シード権獲得は出来なかったが最悪のコンディションの中、途中棄権もなく襷を繋ぎ走り切った選手に拍手を送りたい。立川予選会でリベンジを！

《年次支部ニュース 第19号》 2024年1月30日発行

発行者／中央大学学員会年次支部協議会
発行人／清野 強
編集／年次支部協議会広報部

〒101-8324 東京都千代田区神田駿河台3-11-5 中央大学学員会事務局気付
TEL 03-6261-1615
印刷所／(株)ディスクバリー